ウイルス最新研究紹介　広島市でフォーラム

'10/1/19

ウイルスについて学ぶ「広島バイオフォーラム」が18日、広島市中区のホテルであった。大学教授たちが、新型インフルエンザの特性や、ウイルスを撃退する抗体の最新研究などを発表した。

市民たち約80人が聴講した。広島大大学院の坂口剛正（たけまさ）教授（ウイルス学）は「大流行を起こすウイルスは、病原性も強いと思われていたが、新型インフルエンザウイルスは弱毒性だった」と報告。「強毒性ウイルスに備え、ワクチンを迅速につくる体制の整備が必要だ」と指摘した。

京都府立大大学院の塚本康浩教授（動物衛生学）は、鶏卵より30倍大きいダチョウの卵で抗体を大量に作る研究について発表。マスクや医薬品への応用例を紹介した。広島県内の大学、国や県の研究施設、製薬会社の研究者たちでつくる広島バイオテクノロジー推進協議会が主催した。